

大阪アミューズメントメディア専門学校
学校関係者評価員会報告書
(令和2年度)

学校法人吉田学園
大阪アミューズメントメディア専門学校

2021 年 3 月 1 日
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校
学校関係者評価委員会報告書

大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、
次の通りご報告いたします。

実施日時：2021 年 2 月 26 日（金）17：45 - 20：30

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6 階ライブラリー
（オンライン参加含む）

委 員：	赤松 加枝子	大阪放送株式会社	編成部長
	香川 悟	一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会	理事
	多胡 喜伸	滋賀県立玉川高等学校	美術科教諭
	森 憲司	大阪アミューズメントメディア専門学校	学校長
	中野 俊勝	大阪アミューズメントメディア専門学校	教育顧問
	橘高 雅彦	大阪アミューズメントメディア専門学校	事務長
	下間 正巳	大阪アミューズメントメディア専門学校	ゲーム学科統括部長
	巨勢 佳美	大阪アミューズメントメディア専門学校	声優学科担任副部長
	朝日 庸平	大阪アミューズメントメディア専門学校	事務局副部長

審議事項：（１）２０２０年度学校自己評価について～コロナ禍の状況を踏まえて

①教育理念・目的・育成人材像等

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生支援

⑥教育環境

⑦学生の募集と受け入れ

⑧財務

⑨法令等の遵守

⑩社会貢献

⑪国際交流

（２）「高等教育無償化」の状況に関して

（３）特待生制度について～来期への展開展望も含めて

（４）学校法人吉田学園／経営組織の変更について

（５）令和３年度の学校評価委員会・改選と日程について

（６）その他

（１）２０２０年度学校自己評価について～コロナ禍の状況を踏まえて

①教育理念・目的・育成人材像等

- ・すべて点検評価４となっており、非常に優秀であることが伺える。
- ・社会的な状況の変化はあったが、基本的な理念や目的といったところは一貫した教育姿勢を貫いている。
- ・学生を取り巻くエンタテインメント業界が激変したとは考えていないが、今後、業界のあり方の移り変わりに対応していく必要がある。

②学校運営

- ・２-８について、学校運営の現場に関しては問題なく円滑に機能している。
- ・コロナ禍においても先手を打った立ち回りができていた。
- ・評議員会の意見を集約し、学校運営に活かす仕組づくりが求められる。この春の人員改正に伴い、より確実な運営を目指す。
- ・２-１１について、法令遵守に関する部分はよく整備されている。
- ・業界関係とのつながりは非常に強いと評価している。
- ・一連のコロナの影響により対面の場が失われている状況で、オンラインのコミュニケーションサービスを利用し学校運営を行っており、学生募集の面でも早い段階

から取り入れている。

- ・ 去年一年間コロナの中でオンラインの整備などの学校側の努力は評価できる。
- ・ エンタテインメントの教育は人間関係の構築など対面でないと生み出せないものが必要不可欠になると思われるが、来年度以降の対応についての体制づくりが必要である。
- ・ 学校に登校しづらい素養をもった学生の出席状況などが、オンライン化により改善されたという傾向が見られた。
- ・ 分散授業は、作品添削など特定の内容では通常より効率よく実施することができた。
- ・ コロナ禍により導入されたオンラインの流れは、オンラインならではの利点も多くあることから、コロナ収束後も新しいスタンダードとして残っているのではないかと考えている。

③教育活動

- ・ 通常の評価と今年度の課題にはズレが生じている。
- ・ オンラインと分散登校に加えて、学修時間を確保するために、下記休校期間を短縮して対応を行い、2月頃によく通常通りの学習量に追いついた。
- ・ 例年10月に学園祭、年末に公演会、3月に春季制作発表会及び卒業進級展が開催されるが、多くのイベントがオンラインでの実施となった。
- ・ 声優学科公演会のオンライン化に伴い、追加の撮影機材を導入したことで、高い満足度が得られた。また例年学内のみの成果発表においてもオンラインでの配信が可能になり、保護者への透明度の向上につながった。
- ・ 他学科との連携が多く推進された。
- ・ 23-1にある資格に関する評価が1となっている。エンタメ系の就職を目指し入学するが、半ばで一般就職を目指す学生や、修めた技術を生かして関連業界への就職を図る学生がいるため、学科によっては資格取得があっても良いと考えている。
- ・ 業界に進むにあたって業界に認められている資格を取得することは有利に働くが、授業に取り入れるべきか、という点については、学校への2年制のカリキュラム的な問題や、学生への負担を考慮すると現実的ではない。ただし、自分の時間を使って取得したい学生に対しては、授業枠に入れ込む必要はないが、選択肢として、提示できる仕組みがあっても良い。授業以外で、英語の資格試験対策など業界でプラスαになる講義などを開講してはどうか。
- ・ 声優学科の資格取得は、演技の幅につながると考えられる。自分で発信していく時代においては、引き出しは大いに越したことはないため、学科を超えての教育も有効ではないか。
- ・ 3-25 業界関係者とのつながりについて、すべての企業とのやり取りのオンライン化が進み近場の会社など来なくなったが、遠い企業などとのやり取りなどが増え

た恩恵のほうが多いと感じている。

- ・保護者は形に残るものを学んだという意識が安心材料になる。
- ・社会人も含めて最短で必要な技術を学ぶことをコンセプトに持っていた。大阪は先んじて専門学校となり、一般教養として保護者が見ても安心感や納得感があるカリキュラムが必要であると考えていた事がある。昼に自由枠での授業枠の申請をしているため、一般教養の授業を実施することはできる体制はある。
- ・専門士の称号が付与されるため大学への編入が可能となっている。現在東京で専門職大学の設置が推進されており、将来的にこちらへの進路指導が
- ・学生の SNS 利用に関するルールについて、学校側が学生の成果物を学校の教育内容として発表することができるようになっている。学生側に対し、個人的な発表の制限などは設けていないが、直接的な授業内容の公開やプライバシー侵害などがないように、誓約書を交わしている。SNS の活用は学科によって開きがあり、マンガイラスト学科やキャラクターデザイン学科などは、仕事に結びつく場と捉えており推奨している。
- ・リテラシー的な問題を考慮しつつ、SNS をうまく利用するための環境づくりを整備していく必要がある。SNS の影響は大きく、これについてのガイダンス等が今後必要になる

④学修成果

- ・企業側の説明会、就職活動系のイベントもすべてオンラインで行われた。春季制作発表会及び展示会は、例年3月に約50社100名程度が来られて開催されていたものを、7月にオンラインに振り替えて行った結果、約120社400名程度にまで増加した。この結果を受け、今後も今後もオンラインでの開催を引き続き行うべきと考えている。
- ・通常は企業向けの展示を行わなかったマンガ学科は、学園祭をオンライン化したことで編集者の方に直接見ていただける機会を拡充することができた。
- ・イベント中止のなかオンラインの実施を通してオンラインならではの良い面を学ぶことができた。
- ・4-31、4-32について評価2としているが、AMGグループが求める基準が高いためであり適切に行われている。世の中の専門学校としては4を付けても良いとおもう。しかし AMG が目指す基準ではまだ改善点があるためこのような評価となっている。

⑤学生支援

- ・実技系の授業は本来オンラインでは難しい。オンラインが良かったという評価が目立つが、対面でしか教育できない点もあり、学生の反応などの検証、効果測定が必要である。

- ・実技系が通常通りできないのは大きな負荷である。国家資格系に関しては基準を変えることができないため特に打撃を受ける。
- ・業界でクリエイティブな学生を育てる点においてはハイレベルな教育をしていると感じている。

⑥教育環境

- ・今年、来年の最大の課題の一つである。
- ・オンライン環境の拡充など来期までに細かい環境整備が必要である。
- ・基本的な教育環境は整備されていると認められる。

⑦学生募集と受け入れ

- ・経済的に厳しくなり専門に集中、もしくは大学無償化につき大学に集中など憶測があったが。特定の業界を除きそこまで学生の動向に変化は見られなかった。
- ・例年の1割5部減。高校進学ガイダンスが軒並み中止。You Tube や Line を利用しオンラインで主軸での広報を4月より実施。来期以降はこれが主軸となり情報発信していき生徒側が聞きやすい媒体を選んでいく必要がある。
- ・説明会等で丁寧な説明をしているが、実際入学した学生は学生の理解にばらつきがある。2年制の大変さなどをより具体的に伝える必要があるのではないかと。
- ・高校生自身の気質に個人差はあるが、近年業界理解の希薄化が感じられる。ガイダンス等の現場ではまず厳しさから説明する事が多い。広報としては志願者の意思を削ぐことは避けるためその職業感を伝えることが課題としてある。少なくとも、学生の質が低下しているというわけではなく、AMG を志望する学生の幅が広がっているというのが実情である。
- ・学生は進路実績で AMG を選ぶ率が高く、次いで夢を夢で終わらせない理念。他校に比べ、安易な理由で来る学生は少ない。
- ・実績を認められて入学しているというという結果で終わらせずにそこから一歩踏み込んでより良いものを提供できていると感じる。

⑨法令等の遵守

- ・法令遵守については厳守しているためすべて4評価をつけている。
- ・今期の出願者にトランスジェンダーであると申し出の上で出願した学生がいた。協議の結果、学校としてのガイドラインを作成した。基本的には本人の意思を尊重することとなるが、配慮できることできないことがある。現状在校生の中にも担任が把握している学生が一学年に1、2人の割合でおり増えてきている。
- ・未成年者においては変化の可能性があるため、慎重な対応が必要。
- ・教育界としては受け入れていくのが現状。願書の性別欄なども省く動きが広まって

いる。カミングアウトにしっかり対応してその意志を尊重するとともに保護者との連帯が必要。関連して、説明責任を果たすことも重要。また人権意識についても学校としては一貫した対応が求められる。

- ・ジェンダーに関しては男女の制服問題など学校の教育現場が一番遅れており早急かつ慎重な対応が求められる。
- ・講師の立場で学生にカミングアウトされた経験があるが、クラスの学生は全員把握していて、その世代ではあまり意識していない。大人側の知識不足が問題で勉強していかなければならない。明確な答えのない問題がゆえに知識が必要である。

⑩社会貢献

- ・まだ数は少ないが警察の啓蒙漫画や式典の司会アナウンスなど広く行われている。
- ・税制面での優遇を受けているため、地域貢献として還元していくことが義務付けられている。また本校の教育理念の理解を深めることも含まれている。
- ・集団のなかで育てられることは人格形成において重要である。
- ・技術技能を生かした貢献をされているためその観点で高評価を付けても良い。
- ・受身的な貢献から少し低く評価している。

⑪国際交流に関して

- ・留学生の受け入れに関連して、就労ビザや出口保証の点から受け入れが難しいことから自己評価は低くなっている。日本のエンタメは世界基準で非常に評価が高いため、日本のゲーム業界で働くことが海外での一種のステータスとなっている。留学生を取り巻く環境を調査しつつ、留学生の教育をどう対応していくかが課題である。
- ・業界特有の事情等も認識を深める必要がある。